

頼れる医師の紹介リレー、ウェブで200人掲載 尼崎JR脱線事故で重傷の男性



負傷した脱線事故を振り返る江上善章さん。「残された人間が何かをしなければ、と強く思った」=大阪市北区

 拡大

2005年の尼崎JR脱線事故で重傷を負った乗客の江上善章さん（54）=兵庫県伊丹市=が、お薦めのかかりつけ医をウェブサイトで紹介し続け、25日に10年目を迎える。医師が推薦する医師を江上さんが取材して約200人を掲載。昨秋からは活動に賛同する仲間が加わり、規模を拡大している。「生かされた者として社会貢献を続けたい。事故の風化防止にもつながれば」と惨事を振り返り、思いを強くしている。（藤村有希子）

ファイナンシャル・プランナーの江上さんは当時、4両目の前方に乗車。事故で、雪崩のように多くの乗客が上から覆いかぶさってきた。息ができず意識が遠のき、死を意識した。肋骨（ろっこつ）を折り、頭を打撲した。

「もし3両目にいたら今の私はないかもしれない。わずか数メートルの立ち位置の違いで生きている。人の役に立つ活動をしたい」

江上さんは事故で頭部を精密検査する時、病院を選ぶ基準が分かりにくく悩んだ。医療にもともと関心があり、事故1年後の06年4月25日にサイトを開設した。

サイト名は「おすすめDoctor（ドクター）」。「自分がかかりたい医師」を医師が挙げ、江上さんが取材して記事を掲載。その医師がさらに同業者を紹介する。歯科を含む幅広い診療科目を取り上げ、医師の略歴や診療方針、得意分野のほか、趣味や推薦者のコメントも記す。閲覧者は1日千人を超える。

江上さんはこれまでに大阪や兵庫の計約200人を1人で取材。昨秋からは趣旨に賛同した東京や大阪、九州の同僚ら30人と活動する。年間取材件数は、従来の倍以上の50件ほどになる見通しで、紹介地域も広がる。「将来的には全国の市町村に1人は取り上げられたら」と話す。

<http://www.osusume-dr.com>

2015/4/22